

# 農林水産技術こども新聞

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省 農林水産技術会議事務局 <http://www.affrc.maff.go.jp/>

©朝日学生新聞社 本紙の記事、写真、レイアウトなどの無断転載、複製を禁じます

## ブドウ



## グロースクローネ

色づいた「グロースクローネ」。濃い紫色をして、粒の大きいブドウです。農研機構提供



ブドウの新品種「グロースクローネ」の育ち具合をチェックする佐藤明彦さん＝広島県東広島市の農研機構

# おいしくって色がキレイ

あまくて色も美しいブドウ。しかし夏の高温の影響などで、西日本を中心に色づきが悪いといった問題が起こり、農家の人たちの頭をかかえています。これらを解決する新しい品種が誕生しました。農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が開発した「グロースクローネ」です。生まれるまでに20年近くかかり、研究者たちの「農家の人が作りやすく、消費者においしいブドウを食べてほしい」という思いがこめられています。

7月の下旬、広島県東広島市にある農研機構の果樹茶業研究部門 ブドウ・カキ育種部のなだらかな斜面に、ブドウ

## 「藤稔」×「安芸クイーン」

ウの新品種「グロースクローネ」が実っていました。虫や病気などから実を守るために袋がかぶせられています。特別に見せてもらいました。大きく丸々とした実がなっています。

「もうすぐ熟してきますよ」とブドウ・カキ育種部

ニットの佐藤明彦ユニット長が教えてくれました。夏の高温で色に影響

日本で栽培されている大粒のブドウは「巨峰」や「ピオーネ」といった、皮が濃い紫色をした品種が中心です。しかし近年、夏の高温

温などの影響で、西日本地域を中心に、皮にきれいな濃い紫色がつかないことなどが問題となっていました。

色のつかないブドウは市場での商品価値が下がるために、農家の人たちからも「温度が高くて色づきの

①は色づきの良い「巨峰」。②は温暖化などによる気温の上昇で、色づきが悪くなった「巨峰」です。農研機構提供

## みんなの研究の成果

1998年、粒の大きな濃い黒色をした品種「藤稔」と、赤色の品種の「安芸クイーン」を掛け合わせることにからスタート。研究を進め、2001年に初めて実がなります。その後、全国の36か所の研究機関などに送り、きちんと育つか、色がつくかなどを確かめる試験なども重ねてきました。

20年近くの歳月をかけて生まれたのが「グロースクローネ」です。ドイツ語で「グロース」は「大きい」、「クローネ」は「王冠」を意味します。今年の秋から苗木が発売される予定で、実際に「グロースクローネ」が食べられるのは3、4年後になりそうです。

佐藤さんは20年以上もブドウやカキの品種の研究を続けています。何万個の個

「消費者の方に受け入れてもらえるような、さらにおいしい品種を作りたい」。佐藤さんの研究はまだ続きます。

平成30年7月豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興に向け努力してまいります。

農研機構は、地方公共団体等の関係者、生産者の皆様からの技術的相談に対応するため、技術相談窓口を設置しました。ご相談のある方は以下にお問い合わせください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/disaster/nishinohon201807/madoguchi.html>